

再生可能エネルギー導入戦略
熊取町地球温暖化対策実行計画
(区域施策編)

概要版



2023 (令和5) 年3月

熊取町





はじめに

近年、全世界で発生する強い台風や集中豪雨、干ばつや熱波などの極端な気象現象を引き起こす気候変動問題は、全世界的な課題であるとともに、地域社会の運営に大きく関わる問題となっております。

このような状況の中、本町においても地球温暖化による気候変動への対策に注力し、SDGsが目指す『持続可能な社会』の実現に資するため、令和2年5月25日に「熊取町気候非常事態宣言」を表明し、省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの活用の促進、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにすること、また、気候変動の影響に対応でき、災害に強いまちづくりを目指しています。

また、これまで、温室効果ガス排出量削減に向け、町が取り組む内容をまとめた地球温暖化対策実行計画(事務事業編)をはじめ、プラスチックごみや食品ロス削減に向けた様々な取組みをより一層効果的に推進することを目的に取りまとめた「熊取町エコプロジェクト」などを実施してきました。

この度、さらに脱炭素化に向けた取組みを町全体に広げていくため、若年世代を含む住民代表の方をはじめ、町内事業者や外部識者等による脱炭素住民会議において審議を重ね、その実現に向けた具体的な温室効果ガス削減目標や脱炭素ロードマップ、取組施策等を掲げた熊取町再生可能エネルギー導入戦略及び地球温暖化対策実行計画(区域施策編)を策定し、これに合わせて地球温暖化対策実行計画(事務事業編)の見直しを実施する運びとなりました。

今、私たちは、かけがえのない地球、そして未来ある子どもたちのために、町民、事業者及び行政が一丸となって、対策に取り組んでいく必要があります。

本町におきましても、戦略、計画に掲げた取組みをしっかりと推進していく所存でございますので、皆様におかれましても、一人ひとりが自分事として捉え、脱炭素社会の実現に向けて共に取り組んでいただきますようお願い申し上げます。

末筆になりましたが、本計画の策定にあたりまして、脱炭素住民会議委員の皆様をはじめ、町民・事業者アンケート及びパブリックコメント等を通じて貴重なご意見・ご提案をいただいた住民の皆様、関係各位に心からお礼を申し上げます。

令和5年3月

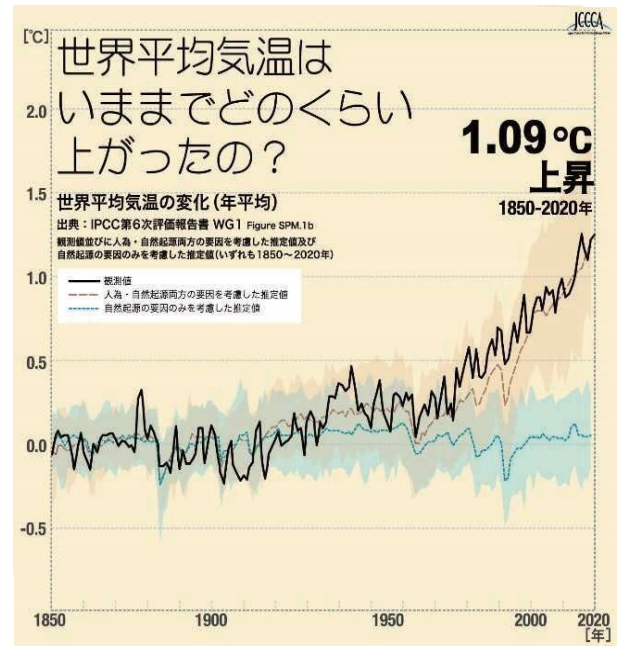
熊取町長 藤原 敏司

熊取町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）とは？

■ 地球温暖化の影響

石油や石炭などの化石エネルギーの大量消費によって、大気中の二酸化炭素などの温室効果ガス濃度が高まり、地球規模での気温上昇（地球温暖化）が進行しています。世界ではこの100年で1.09℃のペースで気温上昇しています。

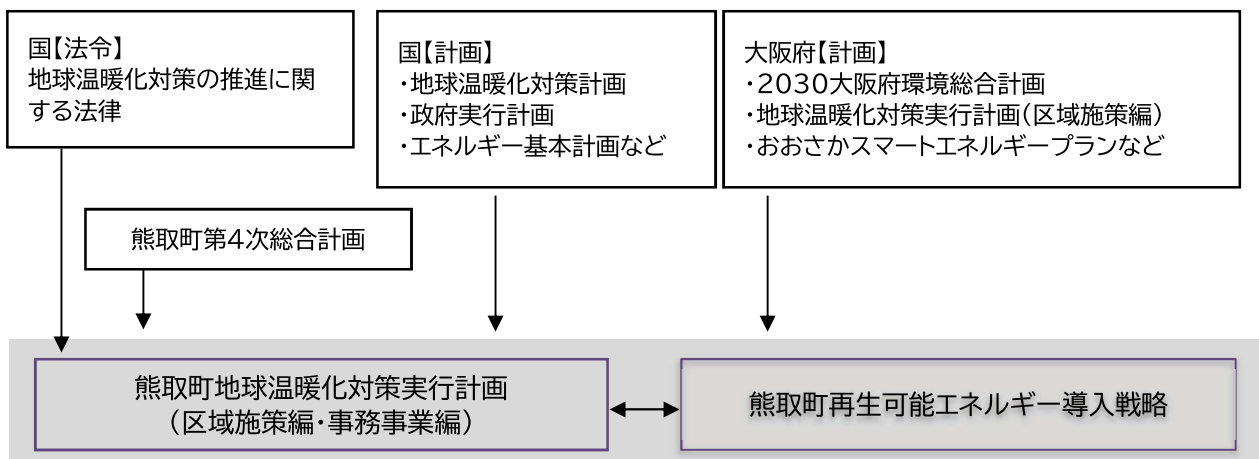
出典：JCCCA ウェブサイトから引用



■ 計画の位置付け

本計画は、国及び府の関連計画を上位計画とし、「熊取町第4次総合計画」の将来像「住みたい 住んでよかった」ともにつくる“やすらぎ”と“ほほえみ”のまちの実現を図るため、本町における再生可能エネルギー導入や温室効果ガス削減に関する総合的かつ具体的な施策の方針を示すものです。

「地球温暖化対策の推進に関する法律」第19条に基づく「地方公共団体実行計画（区域施策編）」に準じた計画策定として、国や府が進める地球温暖化対策と整合を図るものとします。



※「熊取町再生可能エネルギー導入戦略」は、「熊取町地球温暖化対策実行計画」に含む。

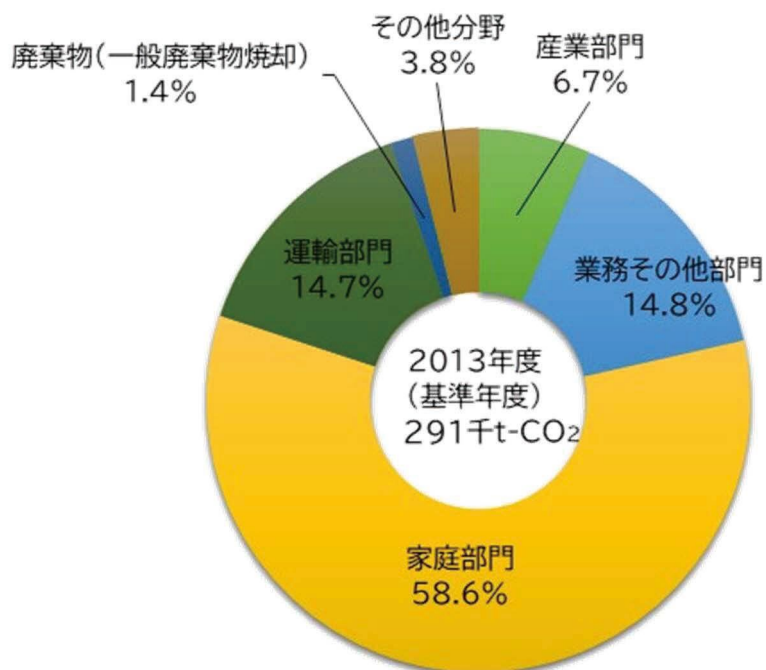
■ 計画の期間と目標年度

- ・基準年度：2013(平成25)年度
- ・計画期間：2023(令和5)年度～2030(令和12)年度
- ・目標年度：2030(令和12)年度

熊取町から排出される温室効果ガスの状況は？

■ 基準年度における温室効果ガス総排出量は291,009t-CO₂

基準年度である 2013(平成 25)年度において、町全体の温室効果ガス排出量は 291,009t-CO₂ で、家庭部門からの排出量が最も多く全体の 58.6%を占めています。



■ これまでの温室効果ガス排出量の推移は減少傾向

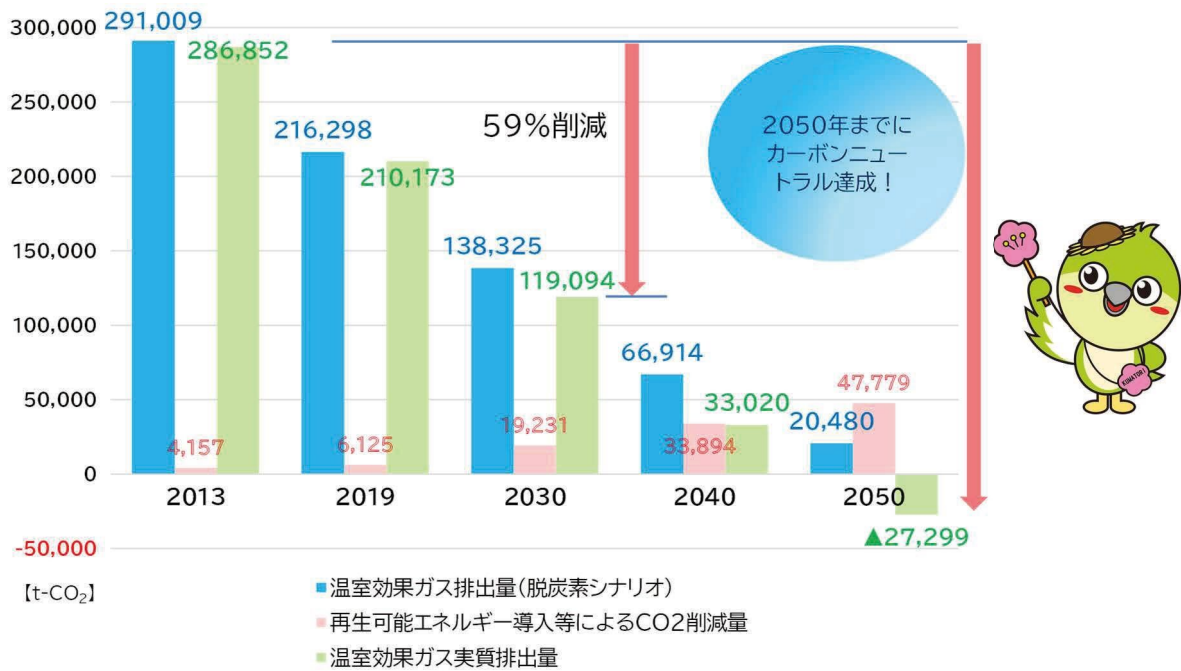
温室効果ガス排出量は、2014(平成 26)年度以降減少傾向にあります。排出量が推計できる直近年度である 2019(令和元)年度は 216,298t-CO₂ であり、2013 度(基準年度)の 291,009t-CO₂ と比べて 25.7%減少しています。



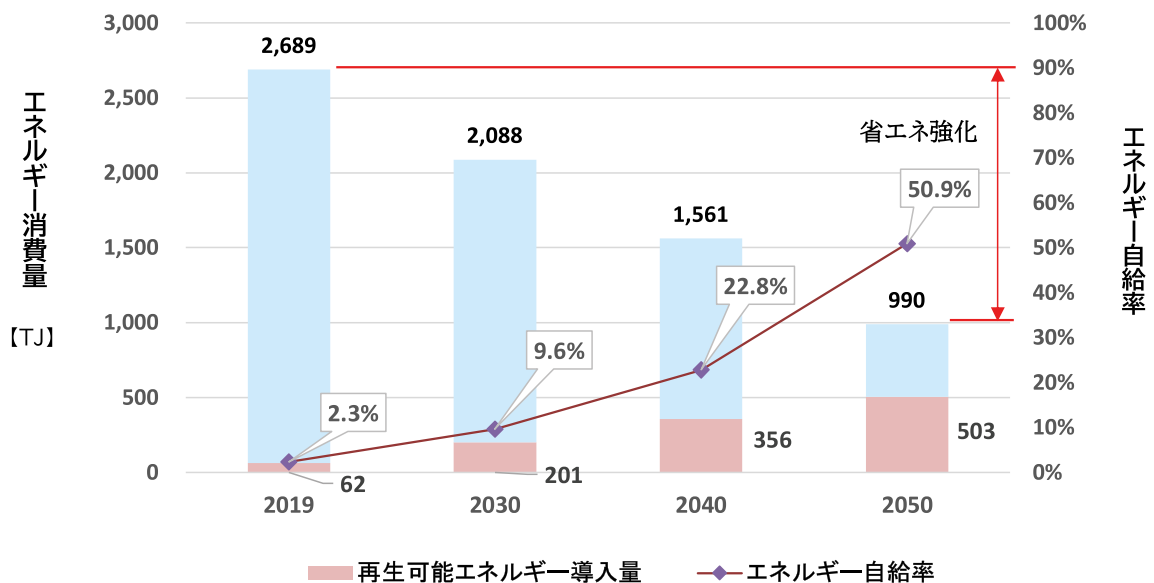
熊取町が目指す目標は？

■ 2030年度の温室効果ガス削減目標を基準年度（2013年度）比 59%の削減を目指します！

本町の温室効果ガス削減目標
2030年度の温室効果ガス排出量を2013年度比**59%削減**します。



再生可能エネルギー導入目標(対エネルギー消費量)



再生可能エネルギーの導入を進めていくためには？

■ 地域資源を活用した再生可能エネルギーの導入！

本町の2050年脱炭素社会に向け、再生可能エネルギーを導入していく戦略方針を以下のとおり大きく4つに分けて設定しました。

戦略方針1 地域特性を踏まえた再生可能エネルギーの積極的な導入

- ・豊富な日射量、森林や水、廃棄物といった地域資源を活かした再生可能エネルギーを導入し、エネルギーの自給率の向上に努めます。
- ・本町の再生可能エネルギーの導入ポテンシャルは、太陽光発電設備が一番大きいことから、太陽光発電設備を重点的かつ積極的に導入します。

戦略方針2 太陽光発電以外の再生可能エネルギーの導入

- ・太陽光発電以外のバイオマス、小水力発電などの再生可能エネルギーの導入によって、そのポテンシャルを勘案し、中長期的ビジョンに立って、その可能性を模索し、導入に向け努めます。

戦略方針3 再生可能エネルギー導入による環境意識の醸成

- ・公共施設等へ先導的に再生可能エネルギーを導入することにより、町民・事業者への脱炭素化、創エネルギー・省エネルギー化に向けた取組への啓発、更には、行動変容へと繋がるように努めます。
- ・エネルギーの「見える化」によって、省エネ意識や環境問題に対する意識の向上を図ります。

戦略方針4 災害に強い、安心・安全なまちづくり

- ・防災拠点、避難所となる公共施設には、自立電源としての機能を備えた再生可能エネルギーの導入を図ります。
- ・住宅や事業所において災害時にも自立運転できるよう、情報提供や支援制度の創設検討など、再生可能エネルギーの導入・促進に努めます。

温室効果ガス排出量を減らすためには何をするの？

■まず、役場から率先して取り組んでいきます！

熊取町の新たな視点を取り入れた戦略

1. SDGsの概念の導入
2. 国民運動「COOL CHOICE」の推進
3. 公共施設のZEB化・設備機器の運用改善と更新
4. 再生可能エネルギーの最大限導入
5. PPPまたはPFI事業による設備更新・導入

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



役場の取組

①施設、設備の省エネルギー・省CO₂対策に関する取組

■設備の導入・更新に関する取組

■施設の新築、改修に関する取組

②再生可能エネルギーの活用と導入拡大

■再生可能エネルギー導入に関する取組

■再生可能エネルギー由来の電力等の調達

③公用車の電動車導入等に関する取組

■電動車の導入

■充電設備の設置等

④職員のCOOL CHOICE

■設備の運用改善等に関する取組

■日常業務に関する取組

■その他の温室効果ガスの削減に資する取組

■職員の意識向上



■ みんなで連携・協働しながら、取り組んでいきます！

2050年脱炭素社会に向けて温室効果ガス排出量を削減していくために、以下のように取り組んでいきます。皆様のご理解とご協力をいただきながら、町・町民・事業者が連携して取り組んでいきます。



	取組施策	取組主体(部門)
①省エネ強化・エネルギーの効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネルギー行動の推進 (COOL CHOICE、ゼロカーボンアクション30) ・住宅・事業所設備の省エネ化(省エネ診断) ・住宅・建物のZEH化・ZEB化、建物の省エネ基準適合の推進 ・エネルギーマネジメントシステムの導入 (HEMS、BEMS、FEMS) ・高効率給湯器の導入(エコキュート、エコジョーズ、エネファーム) 	家庭、業務※、産業 家庭、業務 家庭、業務、産業 家庭、業務、産業 家庭
②再エネの利用	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電をはじめ再生可能エネルギーの導入促進 (住宅、事業所、公共施設、駐車場、ため池、営農・耕作放棄地など) ・バイオマス、小水力発電など太陽光発電以外の再生可能エネルギーの研究・検討 ・PPAモデルの導入 	家庭、業務、産業 家庭、業務、産業 家庭、業務、産業
③脱炭素交通と自動車	<ul style="list-style-type: none"> ・エコドライブやカーシェアリングの推進 ・充放電設備の導入 ・電動車の導入 ・V2Hなど自動車から建物へ有効活用 ・クリーンな移動手段の選択(公共交通、徒歩、自転車) 	家庭、業務、産業、運輸
④発生抑制等	<ul style="list-style-type: none"> ・熊取町一般廃棄物処理基本計画による取組の推進 ・「熊取町エコプロジェクト」の推進 (プラごみ削減、食品ロス削減) 	家庭、業務 家庭、業務
⑤吸収源の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・森林、緑地の保全・整備の推進 ・多様な炭素の吸収・固定に関する情報発信 (カーボンリサイクル、メタネーションなど) 	家庭、業務、産業 業務(公共)
⑥教育・協働・連携	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集と情報提供、環境教育の実施 ・国や府、本町の補助制度の創設 ・消費者行動の変容を促すインセンティブの検討 ・「(仮称)くまどりCO₂バンク」の創設 	横断的取組 横断的取組 横断的取組 横断的取組

※「業務」とは、企業の事務所・ビル、ホテルやサービス業等の第三次産業等のことを言います。

エコキュートとエコジョーズとエネファームの違いは？

エコキュート、エコジョーズ、エネファームの大きな違いは「給湯の仕組み」です。

エコキュートは電気を使用し、エコジョーズはガスでお湯を沸かします。

エネファームは空気中の酸素とプロパンガスや都市ガスから取り出した水素を反応させて発電し、発電するときの熱を使ってお湯を沸かします。

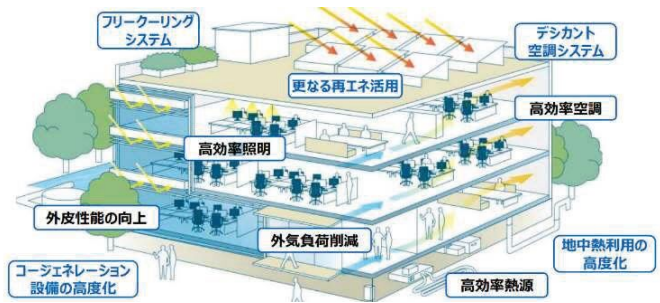
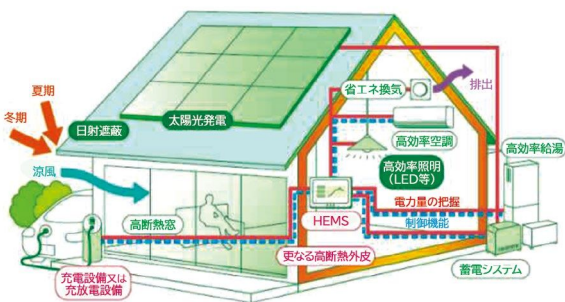
エコキュートは、深夜電力を使ってお湯を作り、作ったお湯をタンクで保温して貯めておくことができます。

エコジョーズは排気熱をうまく利用して水を温め、少ないガス消費量で効率よくお湯を作ることができます。

エネファームは給湯のみでなく、お湯を発電するとき発生する熱で沸かすため、給湯能力も発電能力も優れています。

ZEH・ZEBってなに？

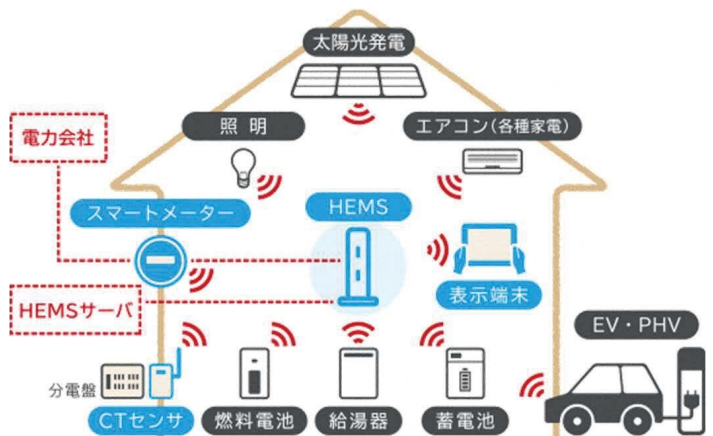
ZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）やZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）とは、エネルギー収支をゼロ以下にする家（ビル）という意味で、建物で使用するエネルギーと、太陽光発電などで創るエネルギーをバランスして、1年間で消費するエネルギーの量を実質的にゼロ以下にする家（ビル）ということです。



ZEH（左）、ZEB（右） 出典：資源エネルギー庁資料

HEMSってなに？

EMS（エネルギー管理システム）とは、通信機能を備えた電力メーター（スマートメーター）などを使って、多くのエネルギーを消費するエアコン、照明、給湯器、情報家電などの稼働状況やエネルギー消費量を見える化し、それらを最適に制御することで、省エネを実現するためのシステムです。それらは、家庭から地域全体まで様々な規模で普及しつつあり、対象とする規模に応じて、住宅を対象としたHEMS（ホーム・エネルギー管理システム）、オフィスビルや商業施設を対象としたBEMS（ビルディング・エネルギー管理システム）、工場などの産業施設を対象としたFEMS（ファクトリー・エネルギー管理システム）などと呼ばれます。さらに、地域全体のエネルギーを包括的に管理するものをCEMS（コミュニティ・エネルギー管理システム）と呼んでいます。



(出典：国立環境研究所 WEBサイト)

ゼロカーボンアクション30を知っていますか？

2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現にむけて、衣食住・移動・買い物などの日常生活における脱炭素につながる行動を「ゼロカーボンアクション30」として整理したものです。ゼロカーボンアクション30には、8つに分類された30項目の具体的な行動があります。



ひとりひとりができること ゼロカーボン アクション30



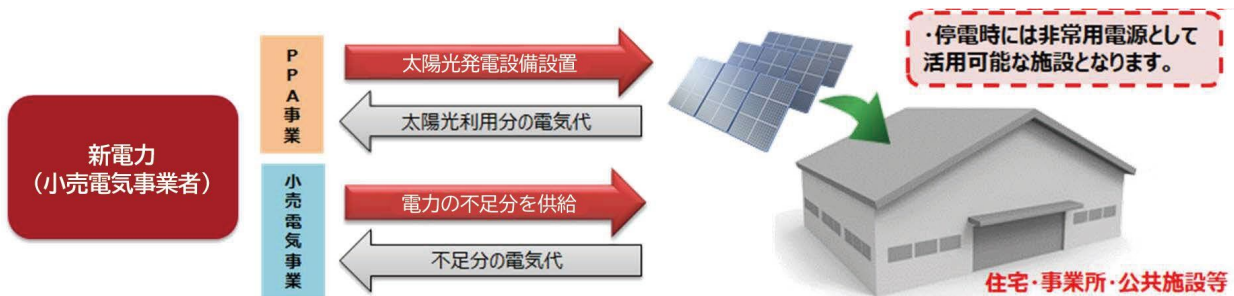
脱炭素社会の実現には、一人ひとりのライフスタイルの転換が重要です。
「ゼロカーボンアクション30」にできることから取り組んでみましょう！

<p>エネルギーを節約・転換しよう！</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 再エネ電気への切り替え 2 タールビズ・ウォームビズ 3 節電 4 節水 5 省エネ家電の導入 6 宅配サービスをできるだけ一回で受け取ろう 7 消費エネルギーの見える化 	<p>太陽光パネル付き・省エネ住宅に住もう！</p> <ol style="list-style-type: none"> 8 太陽光パネルの設置 9 ZEH（ゼッチ） 10 省エネリフォーム 窓や壁等の断熱リフォーム 11 蓄電池（車載の蓄電池） ・省エネ給湯器の導入・設置 12 暮らしに木を取り入れる 13 分譲も賃貸も省エネ物件を選択 14 働き方の工夫 	<p>CO2の少ない交通手段を選ぼう！</p> <ol style="list-style-type: none"> 15 スマートムーブ 16 ゼロカーボン・ドライブ 	<p>食ロスをなくそう！</p> <ol style="list-style-type: none"> 17 食事を食べ残さない 18 食材の買い物や保存等での食品ロス削減の工夫 19 旬の食材、地元の食材でつくった熟食を取り入れた健康な食生活 20 自宅でコンポスト
<p>環境保全活動に積極的に参加しよう！</p> <ol style="list-style-type: none"> 30 植林やゴミ拾い等の活動 	<p>CO2の少ない製品・サービス等を選ぼう！</p> <ol style="list-style-type: none"> 28 脱炭素型の製品・サービスの選択 29 個人のESG投資 	<p>3R（リデュース、リユース、リサイクル）</p> <ol style="list-style-type: none"> 24 使い捨てプラスチックの使用をなるべく減らす。マイバッグ、マイボトル等を使う 25 修理や修繕をする 26 フリマ・シェアリング 27 ゴミの分別処理 	<p>サステナブルなファッションを！</p> <ol style="list-style-type: none"> 21 今持っている服を長く大切に着る 22 長く着られる服をじっくり選ぶ 23 環境に配慮した服を選ぶ

ゼロカーボンアクション（環境省「COOL CHOICE WEBサイト」）

PPA ってなに？

PPA（Power Purchase Agreement）とは電力販売契約という意味で第三者モデルとも呼ばれています。企業・自治体が保有する施設の屋根や遊休地を事業者が借り、無償で発電設備を設置し、発電した電気を企業・自治体が施設で使うことで、電気料金とCO₂排出の削減ができます。設備の所有は第三者（事業者または別の出資者）が持つ形となりますので、資産保有をすることなく再エネ利用が実現できます。



【参考】太陽光発電システムってどこに設置できるの？

■ 駐車場

駐車場の屋根として太陽光発電パネルを用いるもの（太陽光発電 一体型カーポート）、あるいは、駐車場の屋根上に太陽光発電パネルを設置するもの（太陽光発電 搭載型カーポート）を「ソーラーカーポート」といいます。

ソーラーカーポートの優れた点は、土地の有効活用が可能なこと、電力需要施設の敷地内に発電適地があることが挙げられます。また、電力需要施設に隣接していることが多く、自家消費が容易であることが挙げられ、災害時においても電力を利用でき、事業等の災害体制強化、地域のレジリエンス強化にもつながります。



災害時等においても電力を利用でき、事業等の災害耐性強化、地域のレジリエンス強化にもつながる



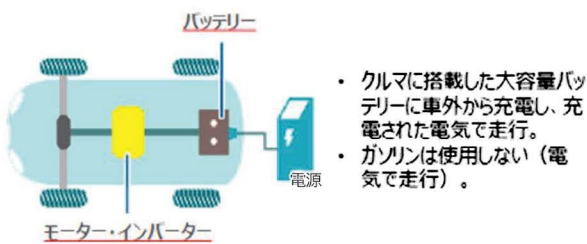
ソーラーカーポートの導入について（環境省資料）

電動車ってなに？

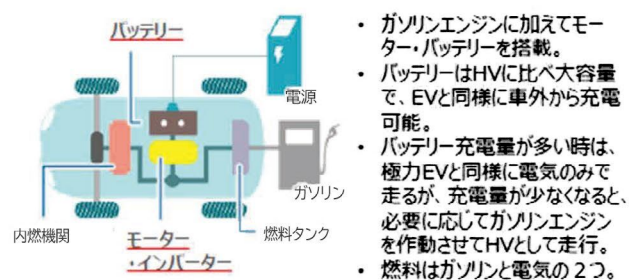
電動車とは、バッテリーに蓄えた電気エネルギーをクルマの動力のすべてまたは一部として使って走行する自動車を指します。電気自動車、燃料電池自動車、ハイブリッド自動車及びプラグインハイブリッド自動車の4車種をまとめて電気自動車等（電動車）と呼んでいます。

地球温暖化の原因となるCO₂の排出が少ない、又は全く排出しないなど環境にやさしい自動車です。

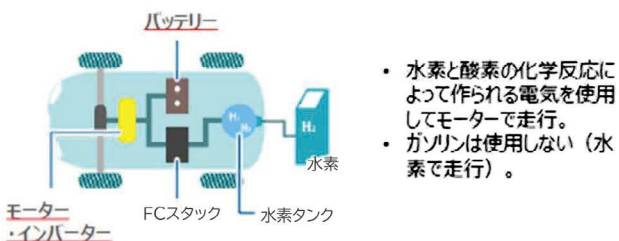
EV
(電気自動車)



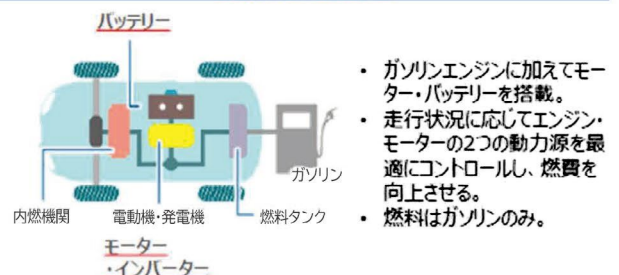
PHV
(プラグインハイブリッド自動車)



FCV
(燃料電池自動車)



HV
(ハイブリッド自動車)



電動車の種類・特徴（経済産業省「電動車活用ガイドブック」より）

【参考】熊取町エコプロジェクトを知っていますか？

「ごみダイエット「4R」にチャレンジ！」を理解し、減量・資源化・再利用、レジ袋の受取拒否、マイバッグ・マイボトルの持参、食品トレイの資源化やワンウェイプラスチックごみの排出抑制、フードドライブ活動や食べきり運動など食品ロス削減の取り組みなどの対策を実践していきます。

熊取町エコプロジェクト

1. プラスチックごみ削減に向けた取組(くまとりプラスチックごみゼロ宣言)

1. マイバッグ(エコバッグ)の普及啓発

- 1. エコバッグの回収・配布(大阪府マイバッグ普及促進事業)
 - 住民から不要なエコバッグを回収、町イベント時に住民へ提供
- 2. 熊取町オリジナルエコバッグ作成
 - 住民全員がエコバッグを所有することを目標に、男性・子どもをターゲットにエコバッグを作成、配布
- 3. 町イベント時の取組
 - ①使い捨てプラスチックを不使用、紙袋(職員寄付分)・リユース食器を活用
 - ②マイバッグ(エコバッグ)持参の周知徹底
 - ③記念品は熊取町オリジナルエコバッグ
 - ④熊取町が後援名義を行うイベントの条件付け(使い捨てプラスチック使用抑制等)

2. マイボトルの普及啓発

- 1. おおさかマイボトルパートナーズへ参画(大阪府主宰)
 - マイボトルの普及による使い捨てプラスチック容器の使用削減を進めるための情報共有など
 - 各公共施設における給水機の設置検討及び設置
- 2. 町内公共施設の自動販売機のペットボトル販売抑制

3. その他

- 1. おおさかプラスチック対策推進ネットワーク会議参画(大阪府主宰)
 - 専門的知識を有する学識経験者や事業者団体等を交えて、行政、事業者、NPO及び府民等の各主体におけるプラスチックごみ対策の現状と課題について意見交換

2. 食品ロス削減に向けた取組

1. 食品ロス削減啓発

- 1. 「食べきり、食材使い切りレシピ」熊取版の作成
- 2. 『毎週月曜日は“食べマンデー”』をキャッチコピーとした啓発

2. 飲食店・小売店への協力要請

- 1. 協力店舗配布用ステッカーの作成
- 2. ドギーバック運動・小盛り対応協力店へステッカー配布

3. 可燃ごみの食品残渣率調査

- 1. 組成分析調査支援事業に応募
 - 国が実施する組成分析調査支援事業に応募。R2実施済み

4. フードドライブの実施

- 1. 町イベント時に食品回収窓口(フードドライブ)を設置
- 2. 役場等の公共施設への食品回収窓口の常設を検討

5. 生ごみの堆肥化(減量化)促進

- 1. 生ごみ処理機等の購入費補助



熊取町ごみの分け方・出し方マニュアルより

2030年までに何をしたらいいの？

2030年度までにCO₂削減目標を達成するためには、例えば、電動車への買替えて考えると、56,000台以上の買替えが必要になりますが、町内保有台数は32,000台なので、これは現実的には困難です。

でも、町民・事業者の皆さんで次のように取り組みれば、目標を達成することになります。



町内17,000戸の住宅のうち、太陽光パネルは年間200戸以上へ設置することになるよ！

町内自動車保有台数32,000台のうち、現在3,700台以上電動車に買い換えをしてるけど、さらに2030年までに9,500台以上電動車に買い換える必要があるよ！



みんなの住宅で使っている蛍光灯をすべてLED照明に交換することになるよ。

エアコンは、町内の住宅の50%に高効率のもの（省エネ性能の高いもの）が普及する必要があるよ。



お風呂で使っている給湯器などは、町内の住宅の80%に高効率のもの（エコキュートやエコジョーズなど）が普及する必要があるよ。

家庭から排出されるごみの量を今よりも4%以上削減する必要があるよ。

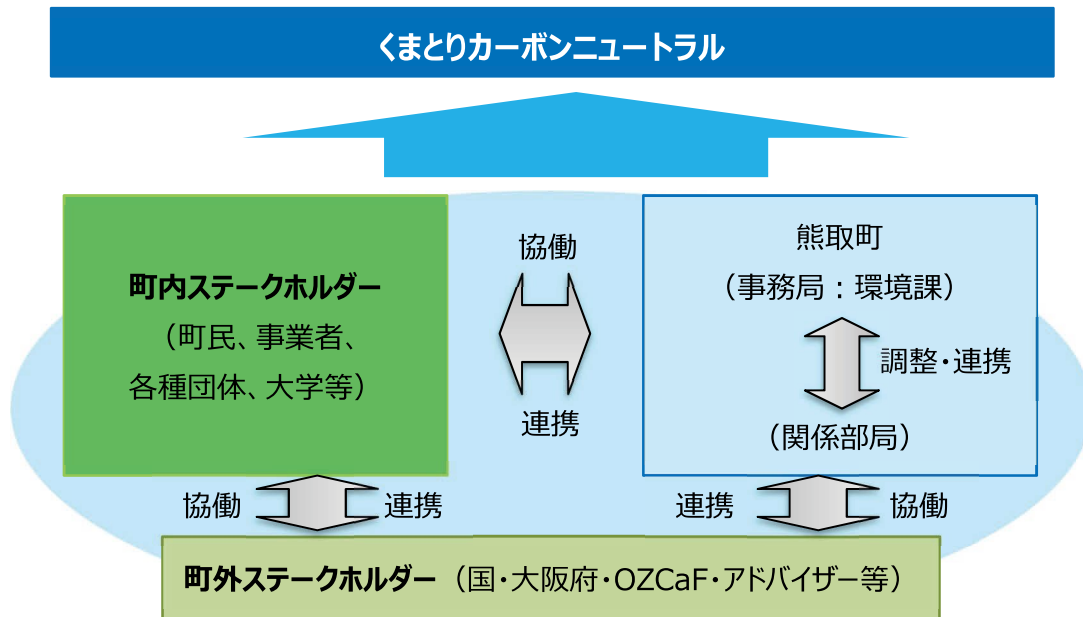


新規着工住宅の60%をZEH化するという目標は、町内の全家庭で、エネルギー消費量を約5%削減することによって達成できるよ。

取組はどのように進めていくの？

■取組はみんなが連携・協力して進めていきます！

町民、事業者をはじめ、国、大阪府、OZCaF[※]などの町内外のステークホルダーや専門知識を有する者(アドバイザー)等による連携協働のもと、各取組項目ごとに意見交換及び合意形成を適宜実施しながら事業を推進します。



※OZCaF：一般社団法人OSAKAゼロカーボン・スマートシティ・ファウンデーションの略称であり、2022年9月14日、熊取町とまちづくり、脱炭素化、公民連携等の分野において包括連携協定を締結。

推進体制図

■PDCAサイクルを利用して、継続的な改善に努めます！

計画策定(Plan)後、施策や事業を実施(Do)します。進行管理については、広く情報共有ツールを立ち上げ、各目標の達成状況や施策の取組状況について、毎年において、発信していくとともに、広く意見等を聴取し、取組の改善に向けた点検・評価(Check)を行い、更には適宜必要に応じ、外部識者等による助言や提言を受けるなど、取組内容にフィードバック(Action)を行います。

やってみよう！家庭でできる省エネの取組とその効果

町民の皆さんがご家庭で実践する日常的な取組で、減らすことができるCO₂の大まかな目安は下表のとおりですので、目標達成に向けて参考にしてください。

家庭でできるCO₂削減の取組例とその効果

種別	家庭での取組	年間 CO ₂ 削減量 (kg-CO ₂)	年間節約金額 (円)
エアコン	夏の冷房時の室温は28℃を目安にする。	14.8	700
	冬の暖房時の室温は20℃を目安にする。	25.9	1,220
	フィルターを月に2回程度清掃する。	15.6	740
照明 (白熱→LED電球)	白熱電球1灯を電球形LEDランプに取替える。	43.9	2,080
照明 (LED電球)	使っていない部屋の照明はこまめに消す。	1.6	80
テレビ (液晶)	画面は明るすぎないように調節し、見ないときは消す。	21.4	1,010
パソコン (デスクトップ)	パソコンを使わないときは電源を切る。	15.4	730
台所	冷蔵庫は壁から適切な間隔で設置し、中に物を入れすぎないようにする。	43.4	2,050
	野菜の下ごしらえに電子レンジを活用する。(根菜の場合)	10.5	1,950
	電気ポットを長時間使わないときはプラグを抜く。	52.4	2,480
風呂 (ガス給湯)	間隔をあけずに入り、追い焚きをしないようにする。	85.7	9,910
	シャワーはこまめに止めるようにする。	28.7	10,470
トイレ (貯湯式)	温水洗浄便座は使わないときはフタを閉める。	17.0	800
	便座暖房の温度設定は低めにする。(中→弱)	12.9	610
洗濯	洗濯するときは、まとめて洗うようにする。	2.9	4,880
車	アクセルをやさしく踏み、ゆっくり発進する。(目安最初の5秒で時速20キロ)	194.0	11,400
	加減速の少ない運転を心がける。	68.0	4,000
	早めのアクセルオフを心がける。	42.0	2,470
	アイドリングストップを心がける。	40.2	2,360
電気こたつ	設定温度は低めにする。(強→中)	23.9	1,520
電気カーペット	設定温度は低めにする。(強→中)	90.8	5,770
熊取町マスコットキャラクター ジャンプ君・メジナちゃん	 <p>すべて実践すると… これだけの効果があるよ</p>	851.0 (≒0.85t-CO ₂)	67,230

出典：環境省「ゼロカーボンアクション30」をもとに作成(2022年度)

熊取町気候非常事態宣言

2016年の「パリ協定」では、日本を含む175の国と地域が地球温暖化に対処する緊急の必要性を認識し、「産業革命前からの気温上昇を2℃より低い状態に保つとともに、1.5℃に抑える努力を追求する。」とした目標に署名を行ないました。

産業革命前からは既に約1℃の気温上昇があり、近年では世界各地で熱波、山火事、洪水、干ばつ等想定を超えた大災害が相次ぎ、日本各地でも猛暑、台風、集中豪雨などの自然災害が頻発化、激甚化するなど、我々の安心安全な生活が脅かされています。

国連の気候変動における政府間パネル（IPCC）は、温暖化は疑う余地がなく、主な要因は人間による影響の「可能性が極めて高い」と評価しており、この危機に対処するため、世界では「脱炭素」社会を目指した動きが加速しています。

人類は、誰もが気候変動の影響を避けることが出来ません。しかし、子ども達の未来のために今みんなができることがあります。未来を救うことができるのは他ならぬ私たち一人ひとりの行動です。

本町は、地球温暖化による気候変動への対策に注力して、SDGsが目指す『持続可能な社会』を実現するために、ここに気候非常事態であることを宣言します。

- 1 気候変動の非常事態に関する住民への周知啓発に努めるとともに、4R（Refuse リフューズ：ごみの発生回避・Reduce リデュース：ごみの発生抑制・Reuse リユース：再使用・Recycle リサイクル：再資源化）の啓発・教育に積極的に取り組み、併せて海洋汚染原因となるプラスチックごみの抑制に努めます。
- 2 省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの活用を促進し、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにすることを目指します。
- 3 森林などの豊かな自然環境を守り、二酸化炭素の抑制に取り組むことにより、良好な自然循環の実現を目指します。
- 4 気候変動の影響に対応するため、災害に強いまちづくりを推進します。

令和 2年 5月25日

熊取町長 藤原 敏司



再生可能エネルギー導入戦略、熊取町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

2023（令和5）年3月

熊取町 住民部環境課環境グループ

〒590-0495 大阪府泉南郡熊取町野田1丁目1番1号

電話番号：072-452-6097

E-mail：kankyou@town.kumatori.lg.jp